

9. 河川管理の現状

河川の維持管理に関しては、洪水等による災害防止のための堤防、護岸、樋門、雨量・水位観測施設といった河川管理施設の機能を保持するため、日常管理を行っている。

表 9-1 九頭竜川水系管理区間延長

河川管理者	河川名（区間）	管理区間延長(km)
国土交通省	九頭竜川	31.2
	〃（九頭竜ダム区間）	36.2
	真名川(真名川ダム区間)	14.2
	日野川	11.0
	足羽川	17.4
	直轄管理区間合計	110.0
福井県	指定区間合計	924.0
合 計		1,034.0

出典：河川便覧 平成 16 年版



図 9-1 九頭竜川水系の管理区間

9-1 河川区域

直轄管理区間内における河川区域内面積は下表のようになっている。内訳は低水路が 59.4%、堤防敷が 11.3%、高水敷が 29.3%となっている。

表 9-2 九頭竜川直轄管理区間の管理区域面積(単位：千 m²)

	低水路(1号地)		堤防敷(2号地)		高水敷(3号地)		計	
	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地
指定区間外	10,501.8	0	2,002.3	0	5,145.4	41.6	17,649.5	41.6
計	10,501.8		2,002.3		5,187.0		17,691.1	

(平成 17 年 4 月 30 日現在 出典：河川管理統計報告)

9-2 河川管理施設

九頭竜川流域における直轄管理区間の堤防整備状況については表 9-3 に示すとおりである。また、河川管理施設等の設置状況を表 9-4 に示す。

表 9-3 直轄管理区間堤防整備状況

直轄管理 区間延長	堤防延長(km)				
	完成堤防	暫定堤防	未施工区間	不要区間	合計
42.2	23.8	51.2	3.2	4.4	82.6
比率(%)	30.4	65.5	4.1	—	100.0

(平成 17 年 3 月時点、ダム区間を除く)

表 9-4 直轄管理区間河川管理施設等設置状況

種 別	箇 所 数		計
	管理施設数	許可工作物	
水門	1	0	1
樋門・樋管	14	103	117
揚水機場	0	21	21
排水機場	2	0	2
橋梁	0	28	28
陸閘	0	6	6
堰	0	0	0

※ 橋梁は鉄道橋、歩道橋、水道橋を含む

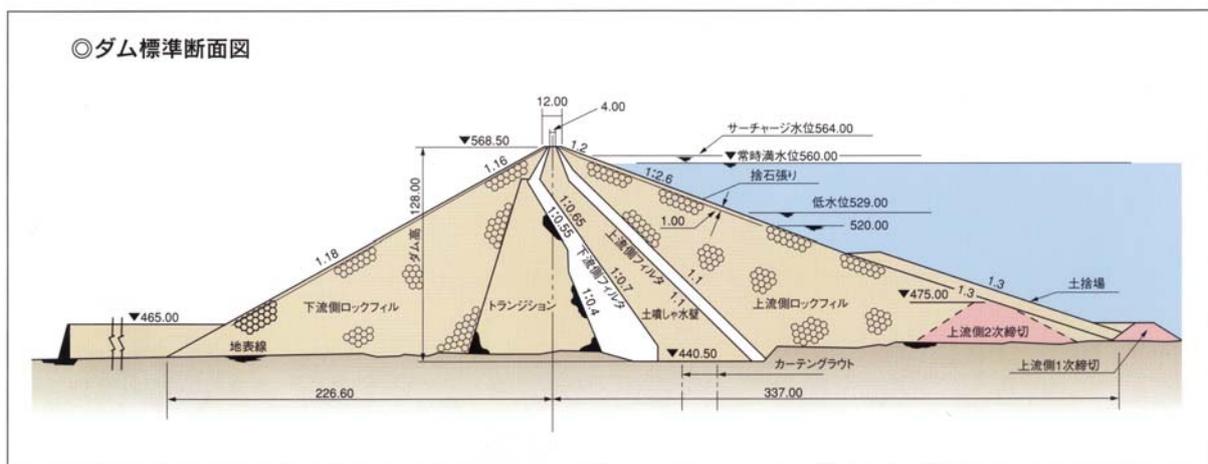
(平成 17 年 4 月 30 日現在 出典：河川管理統計報告)

①直轄管理ダム 九頭竜ダム

九頭竜ダムは、昭和43年7月に完成した、洪水調節、発電を目的とした多目的ダムである。



九頭竜ダム本体



九頭竜ダム貯水容量配分図

(出典：九頭竜川ダム統合管理事務所事業概要パンフレット)

【ダム諸元】

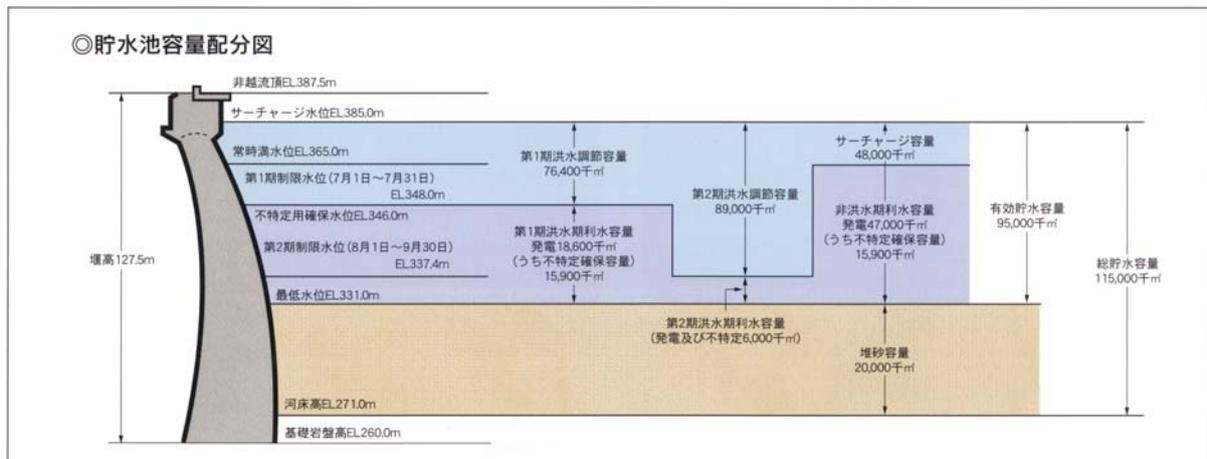
河川名	九頭竜川水系九頭竜川
位置	福井県大野市長野
集水面積	184.5km ²
形式	土質しゃ水壁型ロックフィルダム
堤高	128m
堤頂長	355.0m
堤頂幅	12.0m
堤体積	6,300,000m ³
基礎地盤標高	EL 440.50m
ダム天端標高	EL 568.50m

②直轄管理ダム 真名川ダム

真名川ダムは、昭和54年3月に完成した、洪水調節、流水の正常な機能の維持、発電を目的とした多目的ダムである。



真名川ダム本体



真名川ダム貯水容量配分図

(出典：九頭竜川ダム統合管理事務所事業概要パンフレット)

【ダム諸元】

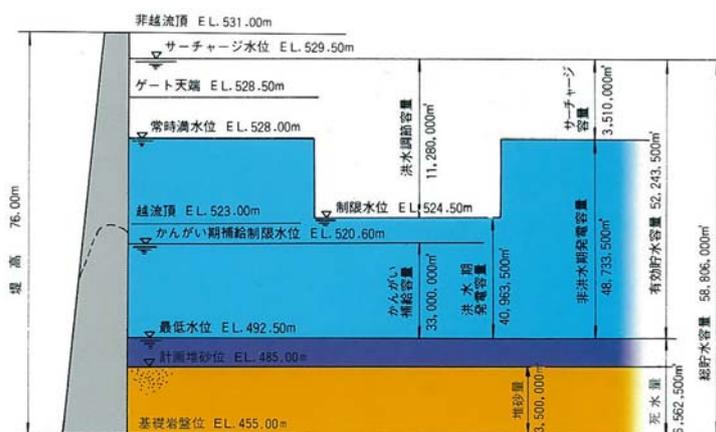
河川名	九頭竜川水系真名川
位置	福井県大野市下若生子
集水面積	223.7km ²
形式	不等厚アーチ式コンクリートダム
堤高	127.5m
堤頂長	357.0m
堤頂幅	6.0m
堤体積	507,000m ³
基礎地盤標高	EL 260.00m
ダム天端標高	EL 387.50m

③福井県管理ダム 笹生川ダム

笹生川ダムは、昭和 32 年 11 月に完成した、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給及び発電を目的とした多目的ダムである。



笹生川ダム本体



笹生川ダム貯水容量配分図

(出典：福井県笹生川ダム管理事務所パンフレット)

【ダム諸元】

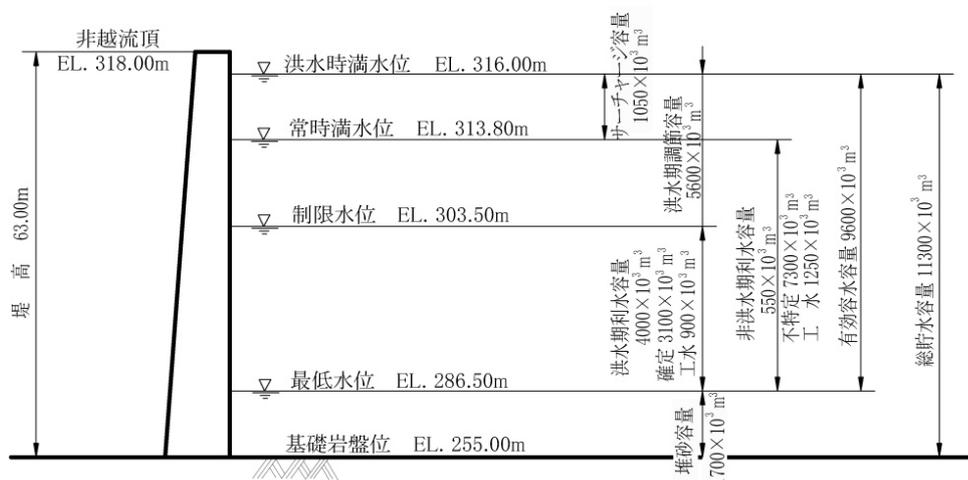
河川名	九頭竜川水系真名川
位置	福井県大野市本戸
集水面積	70.66km ²
形式	溢流型直線重力式コンクリートダム
堤高	76.0m
堤頂長	209.8m
堤体積	224,520m ³
基礎地盤標高	EL 455.00m
ダム天端標高	EL 531.00m

④福井県管理ダム 広野ダム

広野ダムは、昭和 51 年 3 月に完成した、洪水調節、流水の正常な機能の維持、工業用水の供給及び発電を目的とした多目的ダムである。



広野ダム本体



広野ダム貯水容量配分図

(出典：九頭竜川ダム統合管理事務所事業概要パンフレット)

【ダム諸元】

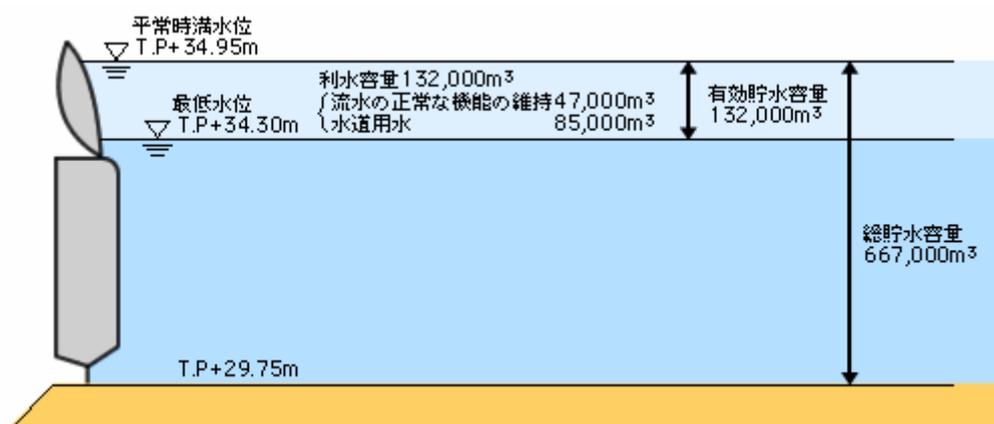
河川名	九頭竜川水系日野川
位置	福井県南条郡南越前町広野
集水面積	42.3km ²
形式	重力式コンクリートダム
堤高	63.0m
堤頂長	162.0m
堤体積	143,000m ³
基礎地盤標高	EL 255.00m
ダム天端標高	EL 318.00m

⑤鳴鹿大堰

鳴鹿大堰は、既存の鳴鹿堰堤を改築し、洪水の安全な流下と既存用水の安定取水の確保、新規水道用水の確保、維持流量の補給、河川環境の保全・向上といった治水、利水、環境の諸目的を達成することを目指し、平成2年に事業着手し、平成15年に完成した可動堰である。



鳴鹿大堰



鳴鹿大堰貯水容量配分図

(出典：鳴鹿大堰事業概要ホームページ)

【堰諸元】

位置 (左岸) (右岸)	永平寺町法寺岡 丸岡町東二ツ屋
形式	可動堰
堰長	311.6m (うち可動部 229.1m)
放流設備	主ゲート4門 (高さ5.7m、幅43.35m) 土砂吐ゲート2門 (高さ5.7m、幅16.85m) 左右岸に階段式魚道、人工河川式魚道、呼び水水路 (微調節ゲート) 各1条

9-3 水防体制

(1) 河川情報の概要

九頭竜川流域では、雨量観測所 29 箇所（うち 25 箇所がテレメータ）、水位・流量観測所 29 箇所（うち 26 箇所がテレメータ）を設置し、光ファイバー、無線等により迅速に情報収集を行うとともに、これらのデータを使って河川水位予測等を行い、洪水予報や水防活動に活用している。また、河川現況を把握し、地域住民への河川情報の提供、水防活動等に役立てている。

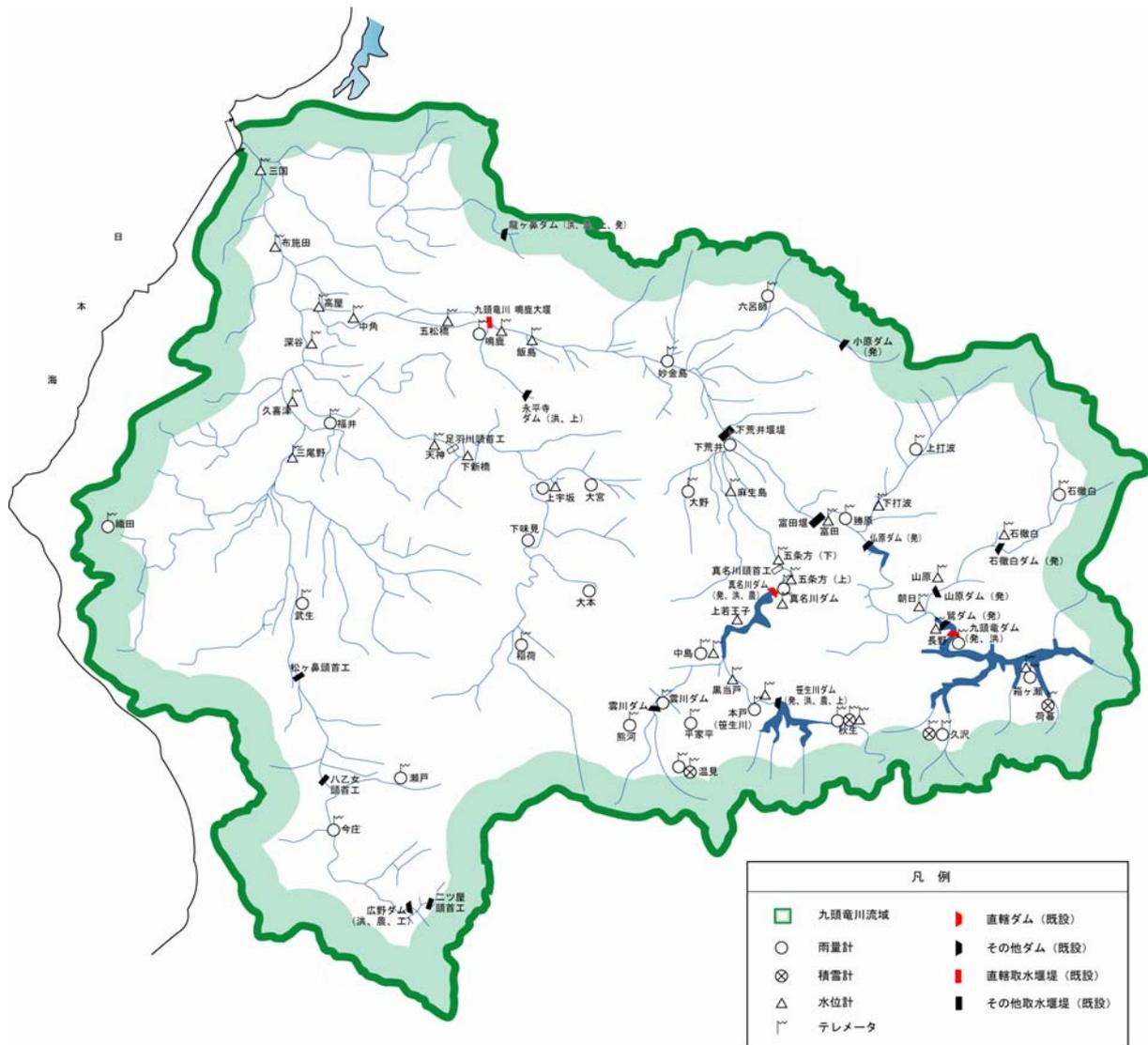


図 9-2 九頭竜川水系の各観測所位置

(2) 洪水予報

九頭竜川および支川の日野川は、国土交通省福井河川国道事務所と気象庁福井地方気象台が共同して洪水予報を行う「洪水予報指定河川」に指定されている。また、九頭竜川洪水予報連絡会と称し、福井県・市町村・消防本部・警察・電気、通信事業者・報道等の機関と定期的に連絡会を開催し、連携を図っている。

(3) 水防警報

九頭竜川および支川の日野川には、水防警報対象水位観測所が合わせて2箇所（【九頭竜川】中角；【日野川】深谷）設置されている。

洪水により災害が起こる恐れがある場合には、水防警報対象水位観測所の水位をもとに水防警報を発表している。

(4) 特別警戒水位

平成17年7月1日より、洪水予報河川以外の河川のうち、洪水により重大又は相当な被害を生ずるおそれがあるものとして指定した河川において、住民の避難等に資する洪水情報を的確に提供するため、新たに特別警戒水位を定めて洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、水害による被害の軽減を図る。九頭竜川水系では、平成16年7月の福井豪雨以降、足羽川において九十九橋及び稲荷の水位をもとに洪水時の状況等を周知させているほか、足羽川を含めた19河川についても特別警戒水位を定め洪水情報の提供を行っている。

9-4 危機管理への取り組み

(1) 洪水危機管理への取り組み

平成13年7月の水防法改正により、洪水予報河川については浸水想定区域を指定・公表することとなったため、九頭竜川水系でも浸水想定区域図の公表を行っている。また、避難所などが記載された「洪水ハザードマップ」が未作成の市町村への支援を行うことにより、さらなる活用を図り、洪水被害の低減に努めている。

福井市では平成17年に洪水ハザードマップを公表し、全世帯に配布することで、市民の防災意識高揚などを図っている。

そのほか、洪水による被害を少なくする対策として、防災に関する情報発信や水防活動の拠点として防災ステーションの整備や、洪水時の内水を速やかに排水するための排水ポンプ車の配備、CCTVによる洪水状況の監視を行っている。

また、地域の水防活動を強化するため、毎年1回水防演習を行っている。

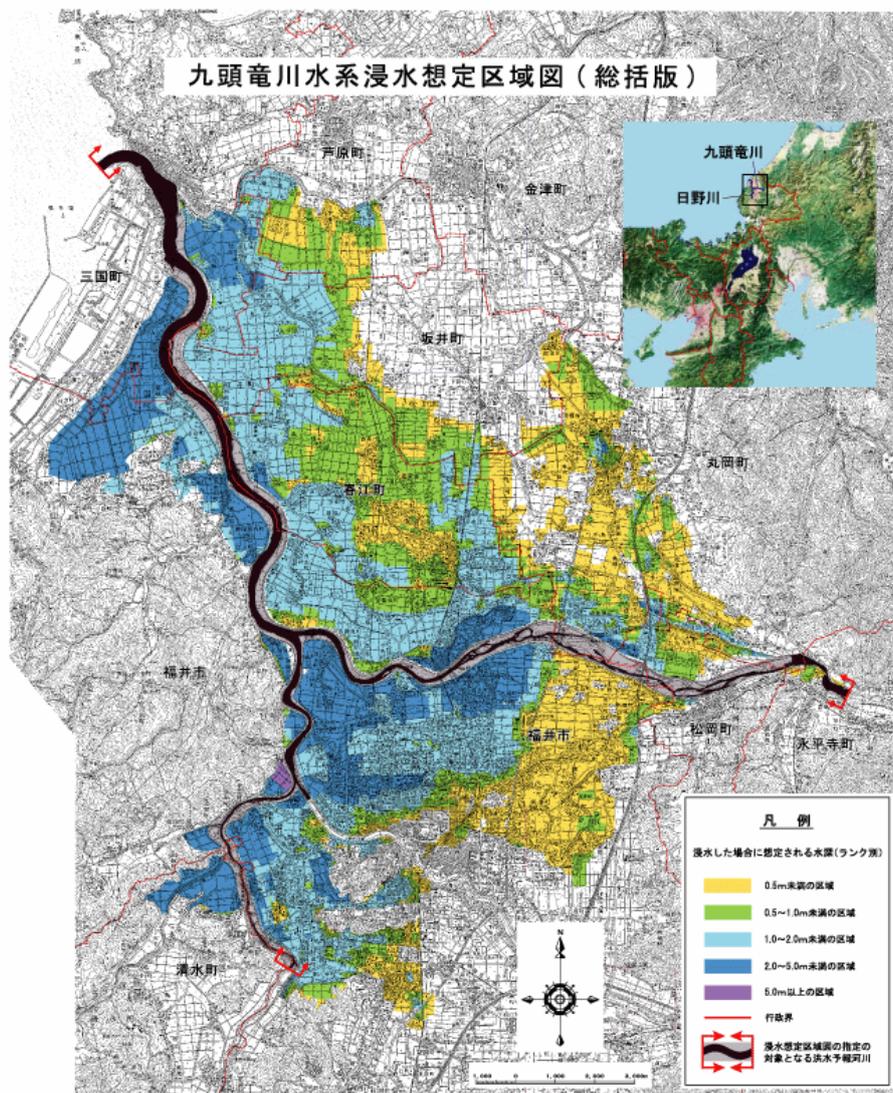


図 9-3 浸水想定区域図

(2) 水質事故防止の実施

九頭竜川では、河川及び水路に関わる水質汚濁対策に関する関係機関相互の連絡調整を図ることを目的に、「九頭竜川水質汚濁防止連絡協議会」を設置し、水質の監視や水質事故発生防止に努めている。協議会は、国・県・警察・消防・流域市町で構成され、水質汚濁に関する情報の連絡、調整及び水質汚濁防止のための啓発活動を行っている。

九頭竜川や日野川の本川筋においては、近年水質事故は発生していない。支川では油流出事故が発生したが、適切な対応により被害の拡大を抑制している。